

## トルコの新型コロナウイルス感染症の状況（2）

### 【概要】

トルコでは1/10から新型コロナウイルス感染症対策を開始していたが、最初に感染者が報告されたのは3/11と比較的遅かった。以降、感染者は3/16に千人、3/21に2千人、3/26に3千人、4/8に4千人を超え、4/11には1日当たりの感染者数が最多の5,138人まで増加、4/19には感染者数がイランを越し中東最多となり、4/20には中国を超え、ピーク時は世界では7番目に多い感染者数を記録するなど感染拡大は非常に速かった。最初の死者が出たのは3/15で、1日当たりの死者数は4/14に100人を超し4/19に127人と最多となった。3/17より政府は人の移動、経済活動を厳しく制限した結果、4/22より1日の感染者数は4千人をコンスタントに下回るようになり、死者も4/26以降は100人を切り、現在は50名前後を推移している。5/14現在、感染者144,749人、死者4,007人、快復者104,030人で、死者、感染者共に多いが、罹患者の7割（重症者含む）が快復した。5/11の政府発表によると、致死率2.75%は他国比較では低め、陽性者率は3/27のピーク時27.5%だったものが3.4%となっている。

5月に入り、1日当たりの新規感染者は1千人台に、重症者は1千人台に、死者数は50人前後と数値に安定的な減少傾向が見られ、罹患者の70%が快復したことから、エルドアン大統領は5/4に「感染の第1フェーズは成功裡に乗り越えた。8300万人の国民の協力の成果である。今後、5月から7月にかけては正常の生活に段階的に戻していく」と宣言した。その具体的な内容とは、一部の経済活動を再開すると同時に、外出規制や31都市に対する県外移動規制等の段階的解除等である。続いて保健省が日常生活における13の感染防止策、及び、正常化プロセスを第1段階：5/11に開始、第2段階：5/27～8/31、第3段階：9/1～12/31、第4段階：1月以降とすると公表した。

トルコ政府は、新型コロナの感染拡大予防策として、検査・予防・治療の徹底、国民の活動の制限、自助努力を行うことを方針としている。まず、PCR検査を徹底（検査数は1日あたり3～4万件。4/29に最多43,498件実施）、国民に対しては手洗い、消毒の呼びかけと共に外出時のマスク着用を義務付け（マスクは週5枚無料配布）、仮設病院の建設を含む医療環境の整備を進めた。4/24のコジャ保健相によると感染拡大が予見された時に緊急性のない治療や手術を遅らせること等で通常病棟の病床稼働率を70%から30%に、集中治療室の病床稼働率80%を60%にそれぞれ引き下げて受け入れ準備を行った為、医療崩壊は防がれたという。また、政府は軍や民間企業、刑務所、学校等を動員して医療用マスクや防護服、人口呼吸器等の生産を行い、医療物資不足も起こさなかった。国民の活動については、3/16に教育機関を休止、3/17に一部の経済活動、文化・娯楽・スポーツイベント等の休止、4/11よりは主要31都市のロックダウンを含む都市間の移動、国内外の移動、公共交通等に制限を加えたほか、65歳以上及び20歳以下の外出禁止、主要31都市の一部例外を除いての週末の外出規制等を行った。自助努力としては、募金キャンペーン「Biz bize yeteriz（自分たちで賄おう）」を3/30に開始、国内で連帯と寄付を呼びかけ、5/4には19.1億リラ（約297億円）に到達した。

以上の他に今回トルコがとった政策として、80カ国に対する医療物資支援を積極的に行ったことが特徴的だった。トルコ政府は世界中が困難な状況にあるため、連帯すべきだと呼びかけを行っている。（欧米メディアでは「マスク外交」「コロナ外交」と報じられている。）

コジャ保健相は5/6に、「疾病の感染をコントロールするという第1フェーズは無事超えたが、感染リスクは続いているため、現在の第2フェーズにおいてはある程度の規制は解除されるが、感染拡大を抑える努力を続けながら、ライフスタンダードの再構築をする時期である。それは元通りの生活に戻るのではなく、controlled social lifeとなる」と、国民に対して引き締めるよう声明を出した。トルコの医学者も第2波を非常に警戒している。（\*政府発表やトルコメディアの報道等を参照し作成）

### 《ご参考》

#### 1. 2020年1～2月

1/10、専門家によるCoronavirus Scientific Advisory Boardを組織。1/24、各空港にサーモカメラを設置し、中国からの渡航者を中心にスクリーニング、及び、税関に赤外線体温計、消毒液を設置、希望者にマスクの配布を開始。1/31、武漢滞在中の自国民の為に帰国便派遣。2/1、中国からのフライトを停止。2/23、イラン国境

クムを封鎖。イラン=トルコ間のフライトを停止。2/29、イタリア、韓国、イラクのフライトを停止。イラクとの陸の国境封鎖。イラクとイランの国境近くに簡易病院を設置。

## 2. 2020年3月以降

### 【経済】

3/17 婚約・結婚式場、音楽付食堂・カフェ、カジノ、ビヤホール、喫茶店、カフェテリア、飲食付エンターテイメント場、野外宴会場、水たばこ店、水たばこ喫茶、インターネットサロン、インターネットカフェ、ゲームセンター、子供用室内遊戯場（AVMやロカンタ内設備含む）、団体の活動（特例を除く）、遊園地、プール、ハマム、サウナ、温泉、マッサージサロン、スパ、ジムの営業を停止。

3/18 雇用と産業を守ることを最優先とすることを前提に、1兆リラ（1兆6,000億円）の経済パッケージを発表。国内線航空運賃のVATを18%から1%に、小売業者等に対する社会保障費や税の納付期限延長、年金最低額の増額、銀行への債務返済の3か月間延期、輸出業者への資金支援、銀行に対する貸し渋り禁止等。

3/20 ショッピングモールの短縮営業開始。

3/21 ショッピングモール、理髪店、美容院、エステサロンの営業停止。

3/22 飲食店の営業をテイクアウトとデリバリーに限定。

3/24 スーパーの営業を9～21時に短縮。来客同士は1m間隔をとる。面積当たりの人数による入場制限。

4/1 スーパーの棚は最低3m間隔に、店舗内の入場者制限、出入り口を分けると内務省が通達を出す。

4/2 郵便局（PTT）のうち混雑が緩和できない支店の閉鎖

5/11 ショッピングモール、美容室、理容室、ビューティーサロン営業再開（ルール有）。自動車関連工場再開。

### 【海外との往来の制限】

2月 中国、イタリア、イラン、イラク、韓国便の運航停止

3/14 独、スペイン、仏、オーストリア、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、ベルギー、オランダへのフライトを4/17迄停止。アゼルバイジャン、ジョージアとは空路及び陸の国境閉鎖。（後に期間延長）

3/16 英、アイルランド、UAE、スイス、エジプト、サウジとのフライト停止、メッカ巡礼帰国者隔離。

3/17 欧州滞在者の帰国希望者約3614人向けに34便を派遣。帰国者は学生寮等で14日間隔離。

3/21 アジア、アフリカ、中南米諸国等46カ国（全68カ国）を航空便運航停止対象国に。

3/23 在外公館の査証発給業務を停止。

3/27 ターキッシュエアラインズが全国際線を運休（貨物以外）

\*在外トルコ人帰国希望者向けの特別機は順次運行し、5月半ばまでに114カ国7万人のトルコ人が帰国。（帰国便のない外国人に対しても随時搭乗許可）

\*5/28より順次国際線を再開（19カ国）

### 【国内の移動】

3/23 市内の公共交通機関は定員の50%での運行に制限。

3/27 国内線フライトを主要都市間に限定。長距離バスは条件付運行。都市間の移動は許可取得義務。

3/28 イスタンブールのマルマライ、アンカラの首都鉄道を除き新幹線、高速列車等の鉄道が運休。

3/30 主要都市（イスタンブール、アンカラ、イズミル）でのタクシーの運行制限（末尾ナンバーで区別）。

4/3 国内線フライトを4/20まで運休（その後、5/28再開に変更）

4/3 主要31都市間の移動を15日間禁止（以降継続）。医療のサポート、葬儀、軍等の移動は条件付きで許可。

4/6 イスタンブール市内の地下鉄は21時まで運行。一部の市内交通停止。

4/11 主要31都市の48時間（4/11-12）外出禁止。禁止の2時間前に内相が発表したためパン屋、マーケットに人が集まり混乱。（SNSで批判が殺到、混乱を生じさせたと言われ外相は辞意を表明するも、4/13に大統領に受け入れられず留任）

4/11 イスタンブールのメトロが週末運休

4/13 31都市（30大都市とゾルンダルク）は週末4/18-19の外出を禁止。以降、毎週末と祝日は外出禁止に

5/4 アンタルヤ、アイドゥン、エルズルム、ハタイ、マラトゥヤ、メルシン、ムーラの移動制限解除。

5/5 イスタンブール、アンカラ、イズミルで実施中のタクシーの営業制限（末尾の偶数、奇数別）解除。

5/11 アダナ、デニズリ、ディヤルバクル、カフラマンマラシュ、マルディン、オルドゥ、シャンルウファ、

テキルダー、トラブゾンの移動規制解除。

【人々の行動に対する制限】

- 3/19 宗務庁は集団礼拝の禁止に加え、モスクの金曜礼拝中止の通告 **muftis** を発出。
- 3/21 軍の式典の延期。床屋、美容院の営業停止。公園、バーベキュー場等でのバーベキューを禁止。
- 3/22 65 歳以上の高齢者及び慢性疾患者の外出禁止。
- 3/27 ピクニック場、森、遺跡（観光地）の週末の閉鎖。週末のピクニック、釣り、屋外の運動（町中でのランニングやウォーキング含む）を当面の間禁止。自治体ごとに平日も適用するか決定。
- 4/3 20 歳以下の外出禁止。公の場でのマスク着用義務化。
- 4/3 31 都市での 15 日間入県禁止。20 歳以下の外出を禁止（4/5 に 18-20 歳の就労者は例外に変更）人の移動は 75%まで減少。
- 4/8 墓地を閉鎖。ラマザン中の Tarawih の祈りはモスクでは行わないと宗務庁発表
- 4/9 20 歳以下の外出禁止の例外として、自閉 autism、重度の精神疾患、ダウン症を追加。
- 4/10 31 都市で週末の外出禁止を発令 2 時間前に通達。混乱が生じる。
- 4/16 31 都市での週末の外出禁止の通達。ただし、パン屋、薬局、病院、公共サービス事業は営業可。
- 4/23(祝日)～26 31 都市での週末の外出禁止の通達。例外あり。
- 5/4 65 歳以上は週 1 回、4 時間外出可。14 歳以下の子どもは 5/13 11 時～15 時に外出可。ソーシャルディスタンス順守。15～20 歳は 5/15 11 時～15 時に外出可。ソーシャルディスタンス順守を呼びかけ。
- 5/11 一部都市での移動規制、週末の外出規制解除。
- \*5/16～19、一部都市で外出規制（5/19 は祝日）

【文化、スポーツ関連】

- 3/16 3/30 まで全国の図書館閉鎖を発表。
- 3/17 公の休憩所や娯楽施設（劇場、映画館、展示場、コンサートホール、ジム）を閉鎖。
- 3/20 4 月末まで学術、文化、芸術の集会や催し等を禁止。競馬の無期停止。
- 3/22 スポーツ試合は 4 月末まで無観客試合、文化観光省主催の芸術関係のイベントは 4 月末まで延期。
- 5/10 サッカーリーグは 6/12 に試合再開を発表
- 5/11 バスケットボール、バレーボールの今シーズン終了を発表

【教育】

- 3/12 大学が休校。学生寮の入寮者は退出（寮の隔離施設転用のため）。on-line 授業へ順次切り替え。
- 3/16 小、中、高が休校。
- 3/23 国営放送 TRT 局で小中高の遠隔授業を開始。テレビ、ネット環境に不備がある家庭に対しては補助。3GB まで無償。3/26、4 月末までの休校措置を発表。
- 3/26 高等教育委員会が大学の春学期授業は遠隔実施を発表。
- 4/29 遠隔授業を 5/31 まで延長を発表。
- 5/8 統一試験を 1 週間延期（高校入試（LGS）は 6/20、大学入試（YKS）は 6/27-28）。

【政治】

- 4/12 ソイル内相が急に週末外出禁止令を出し国民の混乱を招いたため辞任を表明したが、エルドアン大統領が認めず留任。
- 4/14 コロナ患者の治療費を無償に。
- 4/16 コロナウイルスの影響を勘案した予算が国会で承認。

【日本関連】

- 3/18 日本はトルコを含む全世界に対し感染症危険情報 1 を発出。
- 3/21 在トルコ日本大使館はターキッシュエアラインズの減便が見られることから、短期渡航者、帰国予定者に対し、早期帰国の検討についての通達を発出。
- 3/24 宮島大使がコジャ保健相と面談。
- 3/25 ターキッシュエアラインズの成田便最終便運航。（6 月再開の可能性）
- 3/31 トルコを含み感染症危険情報レベルを 3（渡航をやめてください）に引き上げ。

4/3 午前0時(日本時間)より入国拒否対象地域に追加。(14日間の待機、公共交通機関不使用陽性、PCR検査の実施対象。トルコから入国する外国人は特段の理由がない限り入国拒否)

4/17 安倍総理とエルドアン大統領は約20分間、電話会談を実施。内容は下記通り。(外務省HPより)

①エルドアン大統領から、新型コロナウイルス感染症にかかるトルコの取り組みにつき説明があり、安倍総理からエルドアン大統領のリーダーシップの下、あらゆる措置で新型コロナウイルス感染症に立ち向かっていることに敬意を表した。②安倍総理から、新型コロナウイルス感染症に関する日本での取り組みを説明するとともに、トルコにおいて日系企業と現地企業が共同で建設した病院が感染者の治療に貢献することを期待している旨述べた。これに対しエルドアン大統領は、新型コロナウイルス感染症に関する日本政府の対応を高く評価する旨述べた。③両首脳は感染の拡大防止に向け緊密に連携しつつ、引き続き日トルコ関係の強化に取り組んでいくことで一致。

\*いすゞ、トヨタ、ホンダ工場等は生産を停止する等の影響が波及。5/11以降、全ての工場生産再開。

\*イキテリ市民病院(双日とトルコ企業のJV)が一部オープンし患者受け入れ。(5/21正式開院)

#### 【諸外国に対する支援】

4/1 NATO Euro-Atlantic Disaster Response Coordination CenterにNATO加盟国として防護服、消毒薬、マスク45万枚等の医療物資支援を実施。スペイン、イタリア向け。

4/14 英国へ軍用機で医療物資支援(N-95マスク5万、衛生マスク10万、防護服10万等)。

\*トルコは米、外交関係縮小中のイスラエル、断交中のアルメニアを含む80カ国に医療物資を送付。

#### 【医療関係】

3/30 イスタンブールのオクメイダヌ病院の耐震補強工事が終了し再開、コロナ患者受け入れ、600床。

4/1 トルコ全81県で感染者、39県で死者。601人の医療従事者感染、医師1名死亡を含む。

4/6 イスタンブールの新旧空港に仮設病院建設計画を発表。約2000床(コジャ保健相は5/6に仮設病院は自然災害等の緊急事態に備えた医療施設としての利用を見込んでいるため、コロナ収束後も活用が期待できると発言。仮設病院はコロナ以外に大震災発生時にも利用される予定と表明)。マスク販売を禁止、保健省と交通インフラ省の協力で外出禁止の20歳以下と65歳以上を除く希望者へマスクの無料配布開始。

5/6 保健省と統計局は15万人のPCRと抗体検査を実施すると表明。

5/7 マスク販売を再開。価格の上限を1枚1リラに。

\*国防省がマスク、防護服等を製造、民間企業が医療関連物資の生産に協力(自動車→人工呼吸器、繊維製品→マスク、等)。工業高校、刑務所でもマスク製造を実施。

\*各大学で検査キット、ワクチン、治療薬の開発を実施。

\*SNSでサポートを求めた在スウェーデントルコ人家族に医療用飛行機を派遣(医療用機は無償)。

#### 【その他】

- ・3/1より感染予防のため、公共の場、交通機関、手指用消毒薬設置を開始。
- ・3/19より保健相が医療従事者に対する謝意を示すため、毎晩21時に拍手を送るよう呼びかけ。
- ・3/22に官公庁でフレックスやリモートワークを導入。
- ・著名人の感染者では、元陸軍司令官(79歳)がイランからの帰国後に死亡等。その他著名人の罹患多数。
- ・公共広告や企業広告では「家にいるように(#Evde kalm)」と呼びかけているものが多数。
- ・医療従事者の働きぶりや、快復者についての報道多数。(退院時に拍手が送られる様子等)
- ・外出禁止の高齢者に対する買い物代行等を公務員等が実施。外国人に対しても同様の対応。
- ・自国民用に国外派遣したチャーター機に帰国困難だったウクライナ人を搭乗させ話題に。
- ・野犬、野良猫を地域コミュニティが守っており、公務員が餌やり等を実施。
- ・トルコが伝統的に使用するコロンヤ(香り付きアルコール液で、消毒に有効)が話題に。
- ・4/23~5/23のラマザン月のイフタル(断食明けの食事)で大勢が集うことも控えることを呼びかけ。
- ・5/7にトルコリラは対ドル市場最安値(\$1=TL7.204)。

以上